

神奈川県の家族類型別の 将来世帯推計の方法と 市町村への適用

平成30年度 神奈川県地域人口研究会
2018年12月21日（金）於神奈川県本庁舎
札幌市立大学 丸山洋平

目的と内容

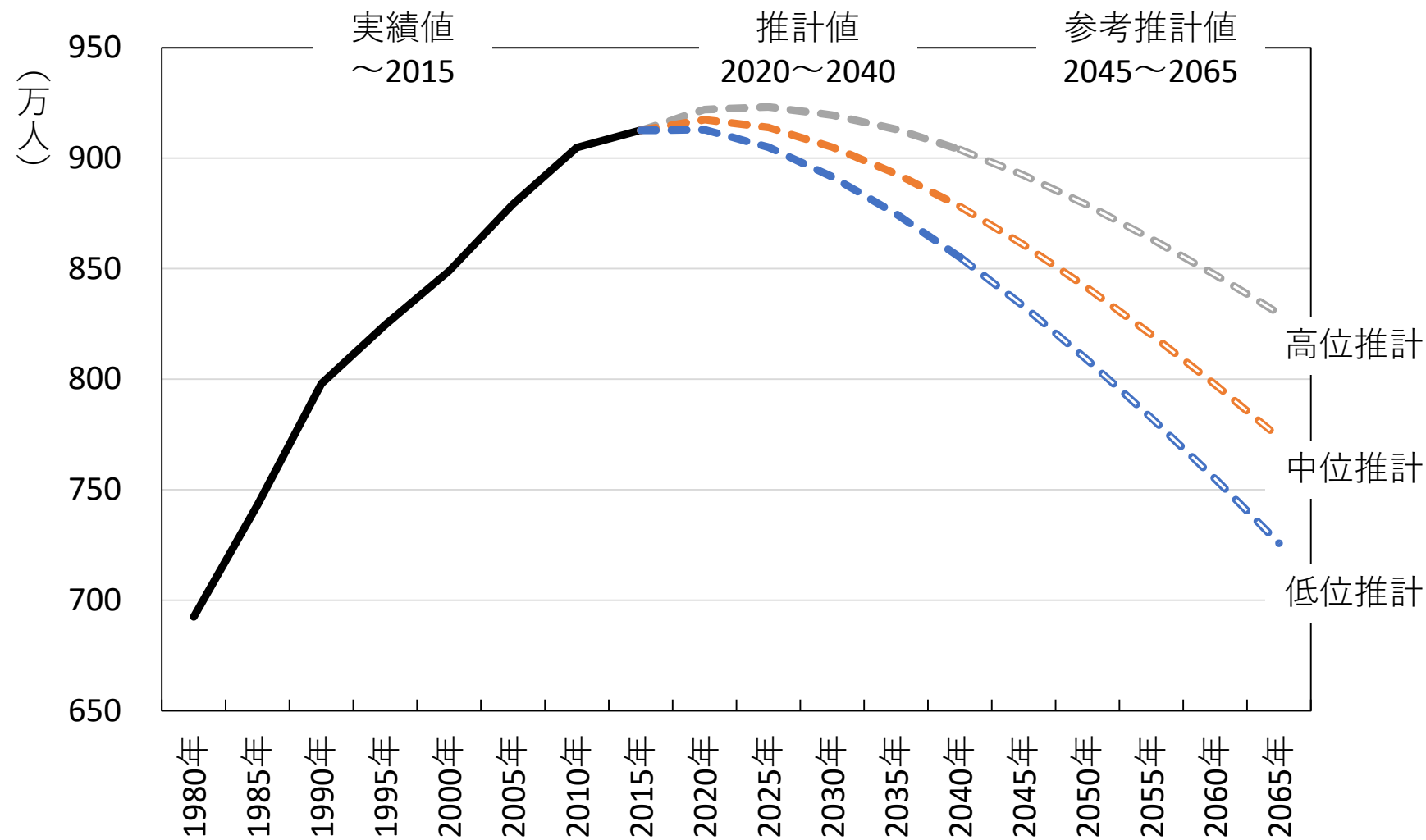
◆目的

将来人口推計結果の応用・政策利用の方法として、家族類型別将来世帯推計の手法と実践方法を解説する。

◆内容

1. 神奈川県人口推計・分析共同研究会による将来世帯推計の方法と結果
2. 当該手法の市町村への適用について～藤沢市・横須賀市を事例として～

1.1 神奈川県将来推計人口



資料：神奈川県人口推計・分析共同研究会

1.2 世帯推計の重要性

- ◆本格的な少子高齢・人口減少社会への移行は、家族形態が大きく変化する過程である。
 - 「人口減少社会とは家族が変わる社会」という認識が重要
- ◆家族類型別世帯数の推計は、過去の家族変動を振り返り、将来の家族変動を見通す上で非常に有用な指標となる。
- ◆男女別・年齢別の将来推計人口が得られていれば、**世帯主率法**という一般的な世帯推計手法によって、比較的容易に家族類型別将来世帯数を推計できる。
 - 国立社会保障・人口問題研究所が将来世帯推計を行っているが、人口が市町村単位まで推計しているのに対し、世帯は都道府県単位の推計にとどまる。市区町村は独自に推計しない限り将来世帯推計結果を得られない。

1.3 世帯の家族類型と神奈川県在世帯数

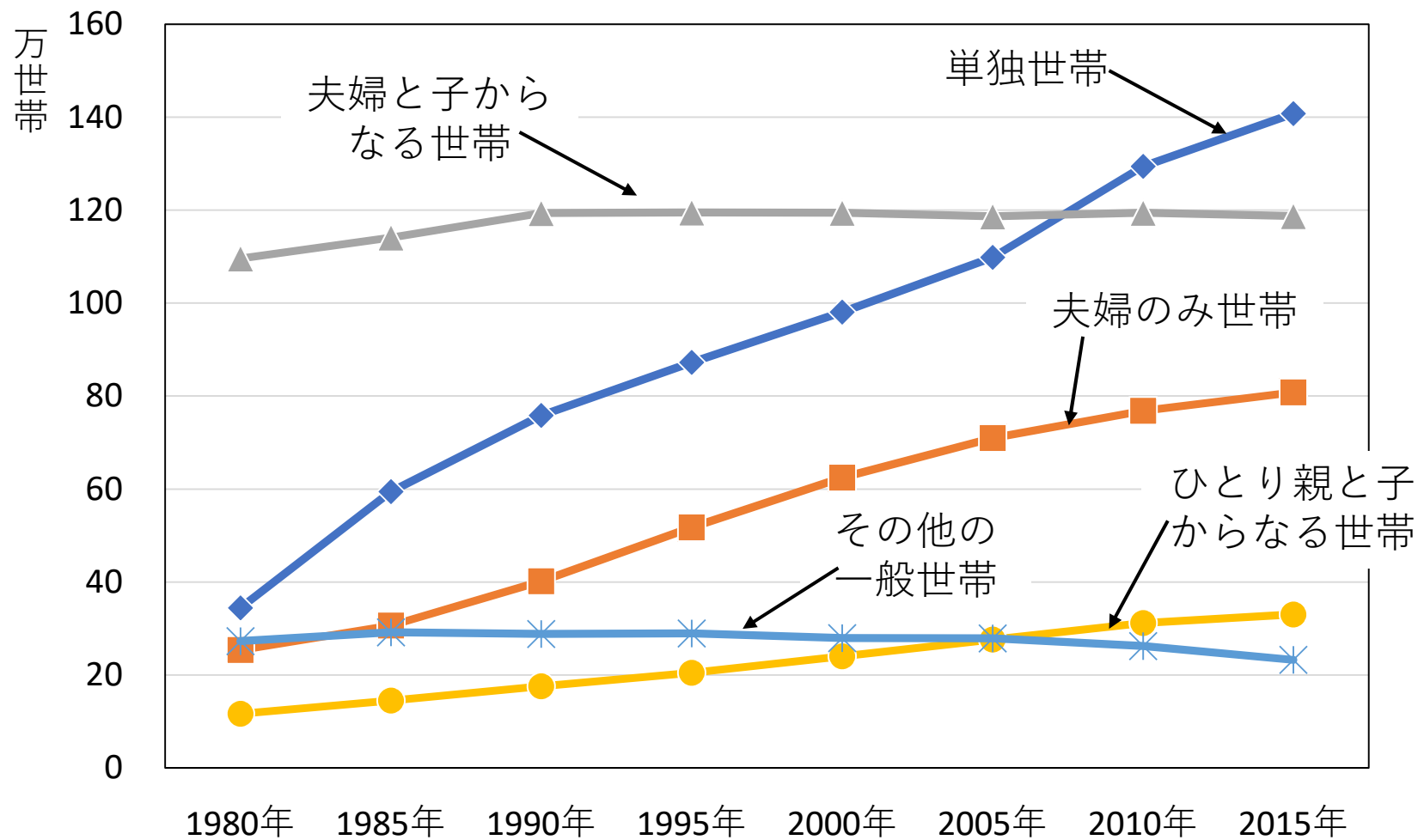
神奈川県家族類型別一般世帯数（2015年国勢調査）

推計での世帯の類型		国勢調査の世帯の類型		世帯数	
一般世帯	単独世帯	単独世帯		1,407,541	
	核家族世帯	夫婦のみ世帯	核家族世帯	夫婦のみの世帯	804,367
		夫婦と子からなる世帯	親族のみの世帯	夫婦と子供から成る世帯	1,181,890
		ひとり親と子からなる世帯		男親と子供から成る世帯	52,208
	その他の一般世帯			女親と子供から成る世帯	276,884
				夫婦と両親から成る世帯	5,189
				夫婦とひとり親から成る世帯	26,866
				夫婦, 子供と両親から成る世帯	19,080
				夫婦, 子供とひとり親から成る世帯	55,024
				夫婦と他の親族(親, 子供を含まない)から成る世帯	6,314
夫婦, 子供と他の親族(親を含まない)から成る世帯				19,678	
夫婦, 親と他の親族(子供を含まない)から成る世帯				2,474	
夫婦, 子供, 親と他の親族から成る世帯				6,382	
		兄弟姉妹のみから成る世帯	23,519		
		他に分類されない世帯	29,614		
		非親族世帯	37,505		
		施設等の世帯	14,088		

5つの家族類型

資料：国勢調査

1.4 神奈川県における家族類型別一般世帯数の推移



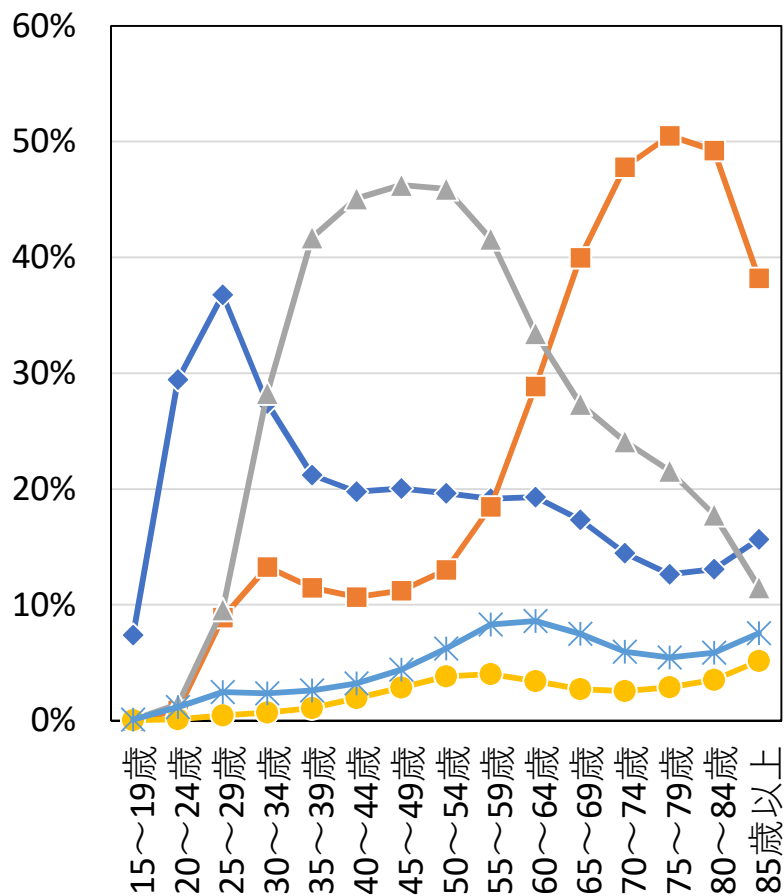
資料：国勢調査

1.5 世帯主率法とは？

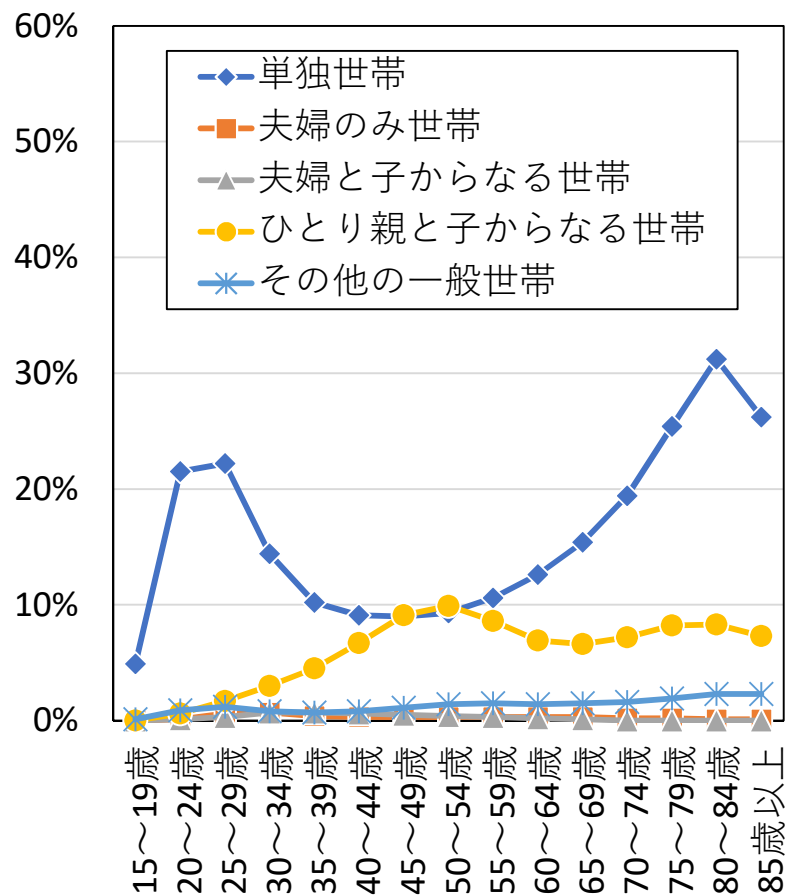
- ◆1世帯には1人の世帯主がいることを前提とし、世帯主数を推計することで世帯数を求める手法
- ◆人口に占める世帯主の割合が世帯主率
⇒男女・年齢・家族類型別
- ◆【世帯数 = 人口 × 世帯主率】であるから、**世帯主率の将来仮定値**を設定し、それと既知である**将来推計人口**の積として将来世帯数が推計されるという仕組み
- ✓以降は単独世帯主率（男）を例として、世帯主率の将来仮定値設定のプロセスを解説する。
 - 他の家族類型、世帯主が女性の場合もプロセスは同様である。

1.6 神奈川県 の 家族 類型 別 世帯 主 率

神奈川県 (男)

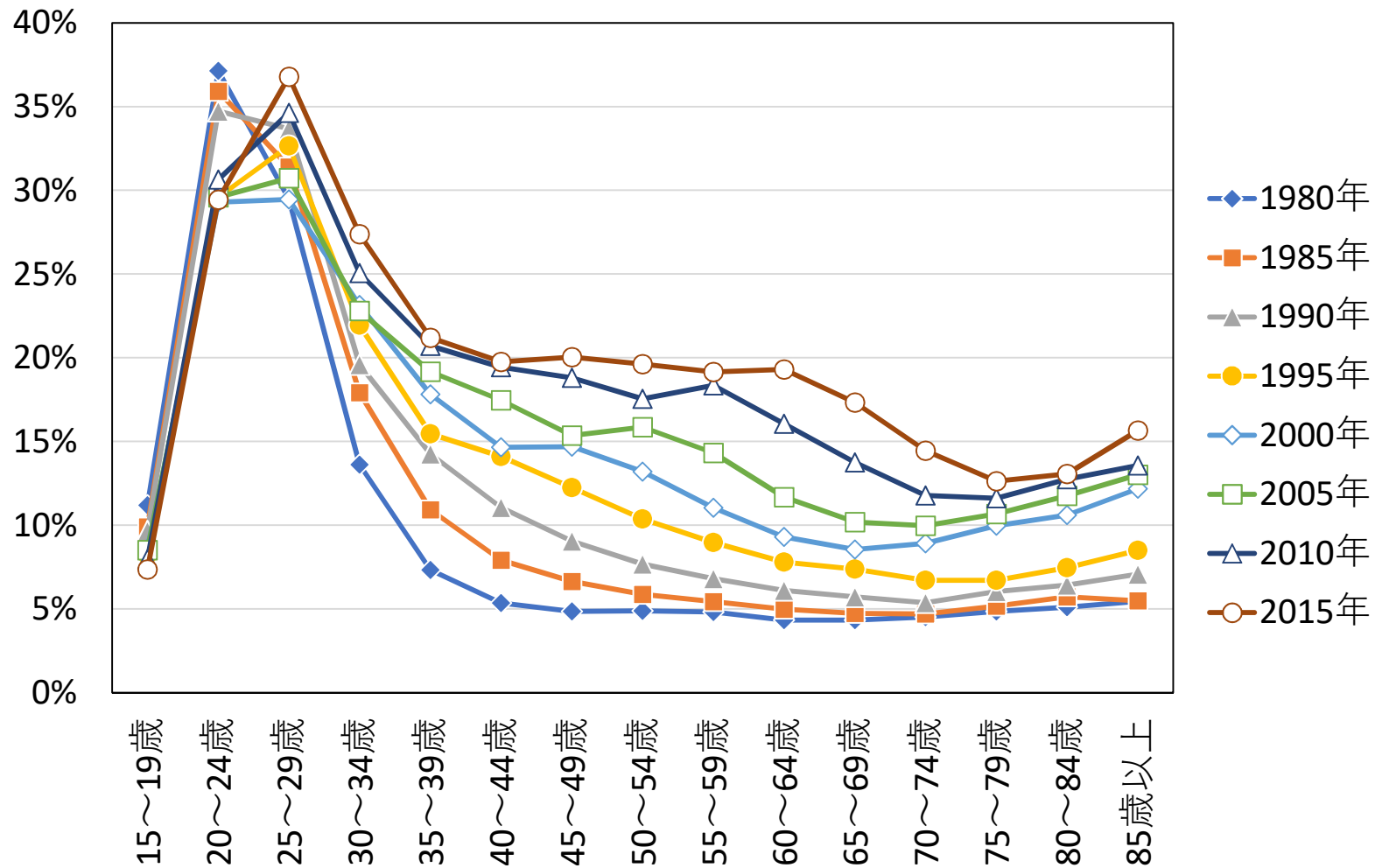


神奈川県 (女)



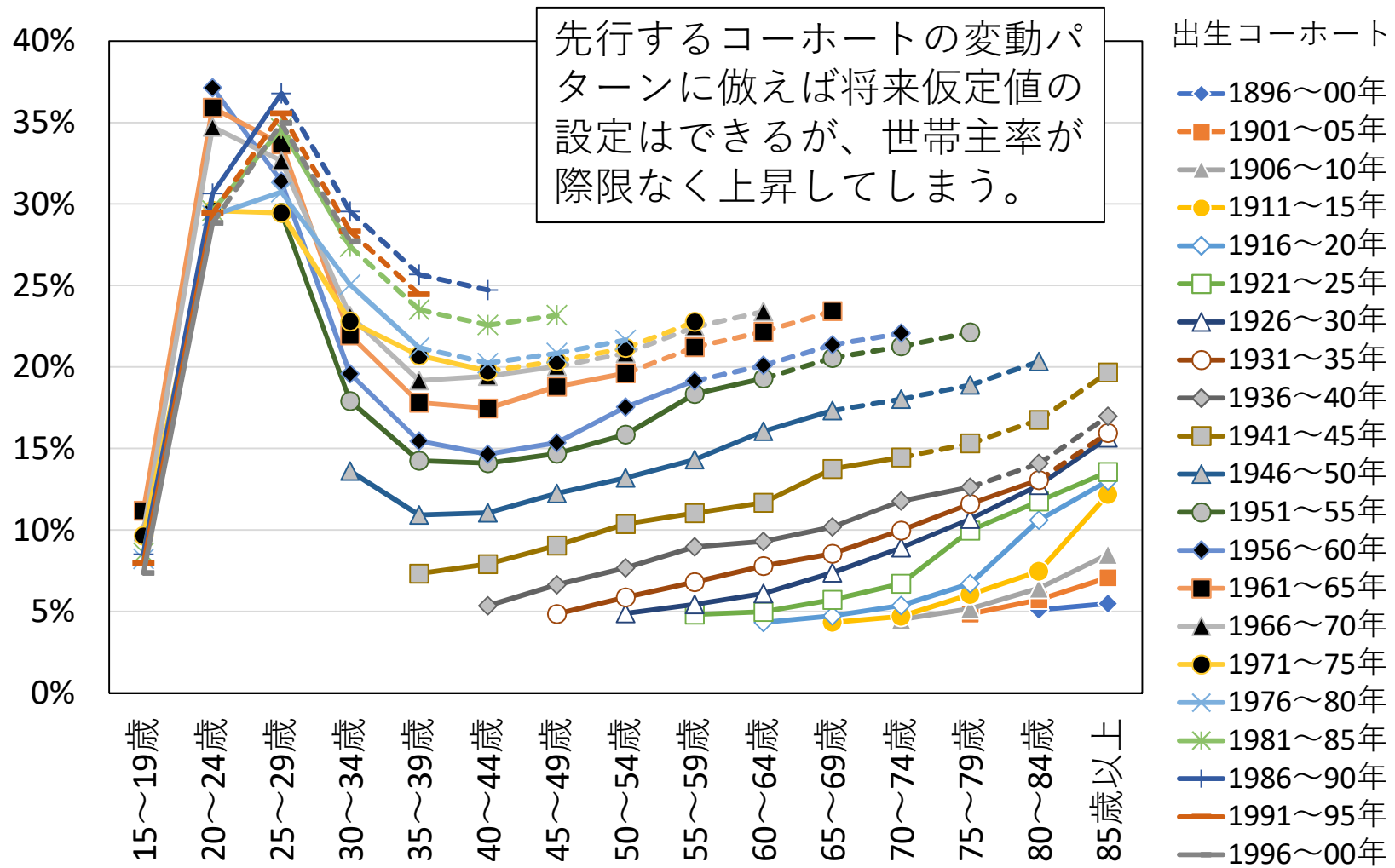
資料：国勢調査

1.7 神奈川県単独世帯主率（男）【年次別】



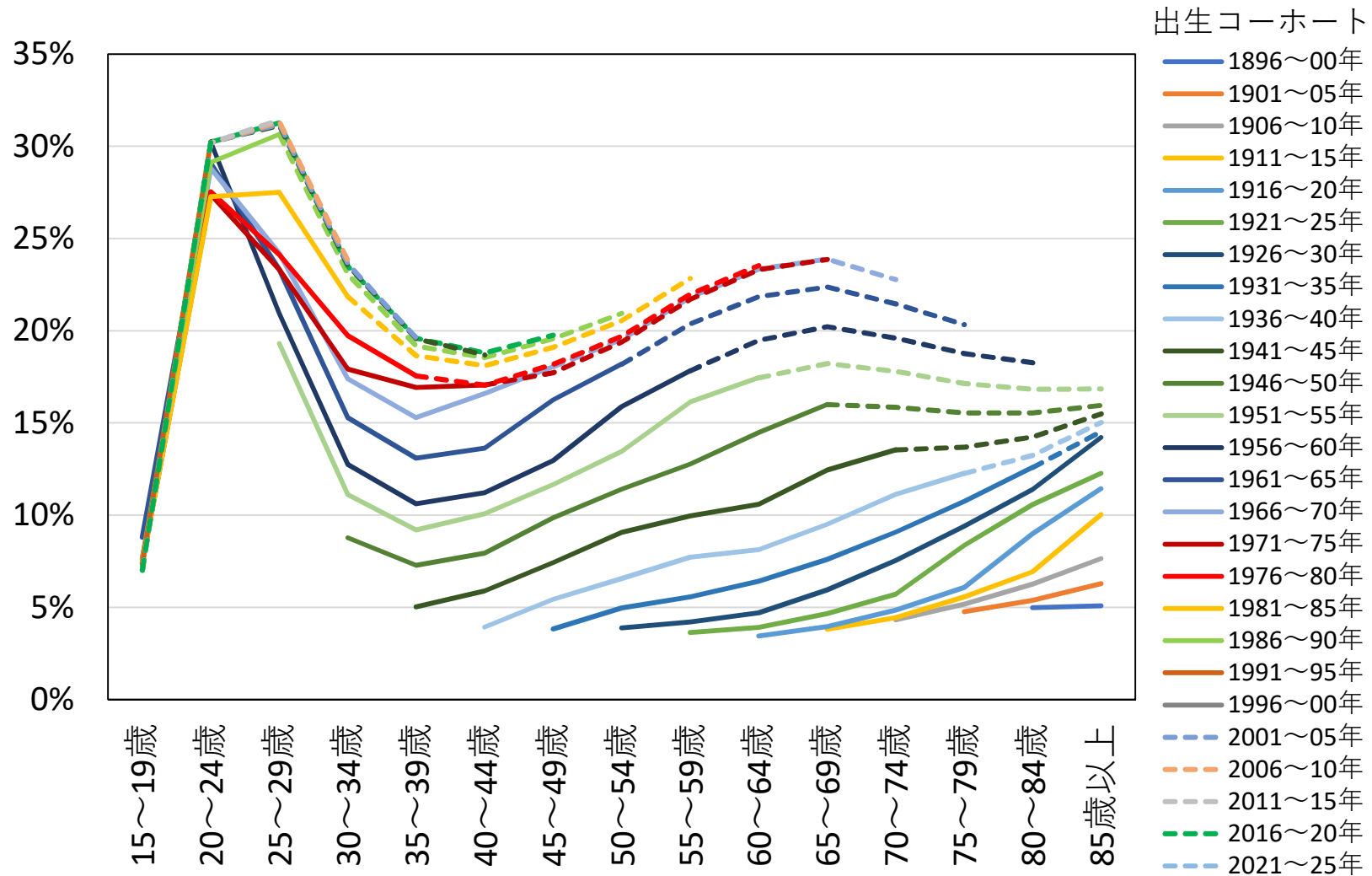
資料：国勢調査

1.8 神奈川県単独世帯主率（男）【コーホート別】



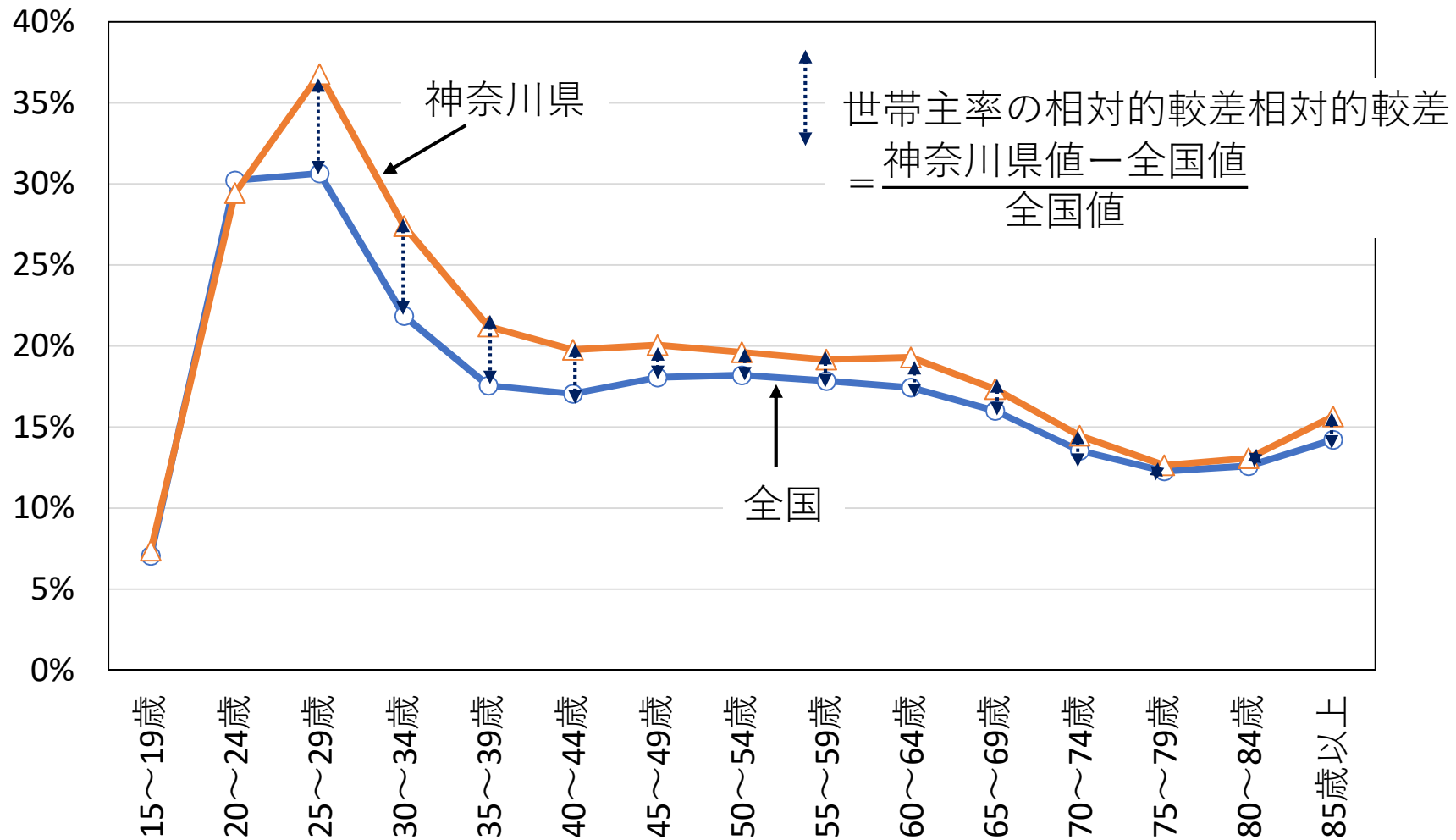
資料：国勢調査

1.9 社人研全国世帯推計による単独世帯主率（男）



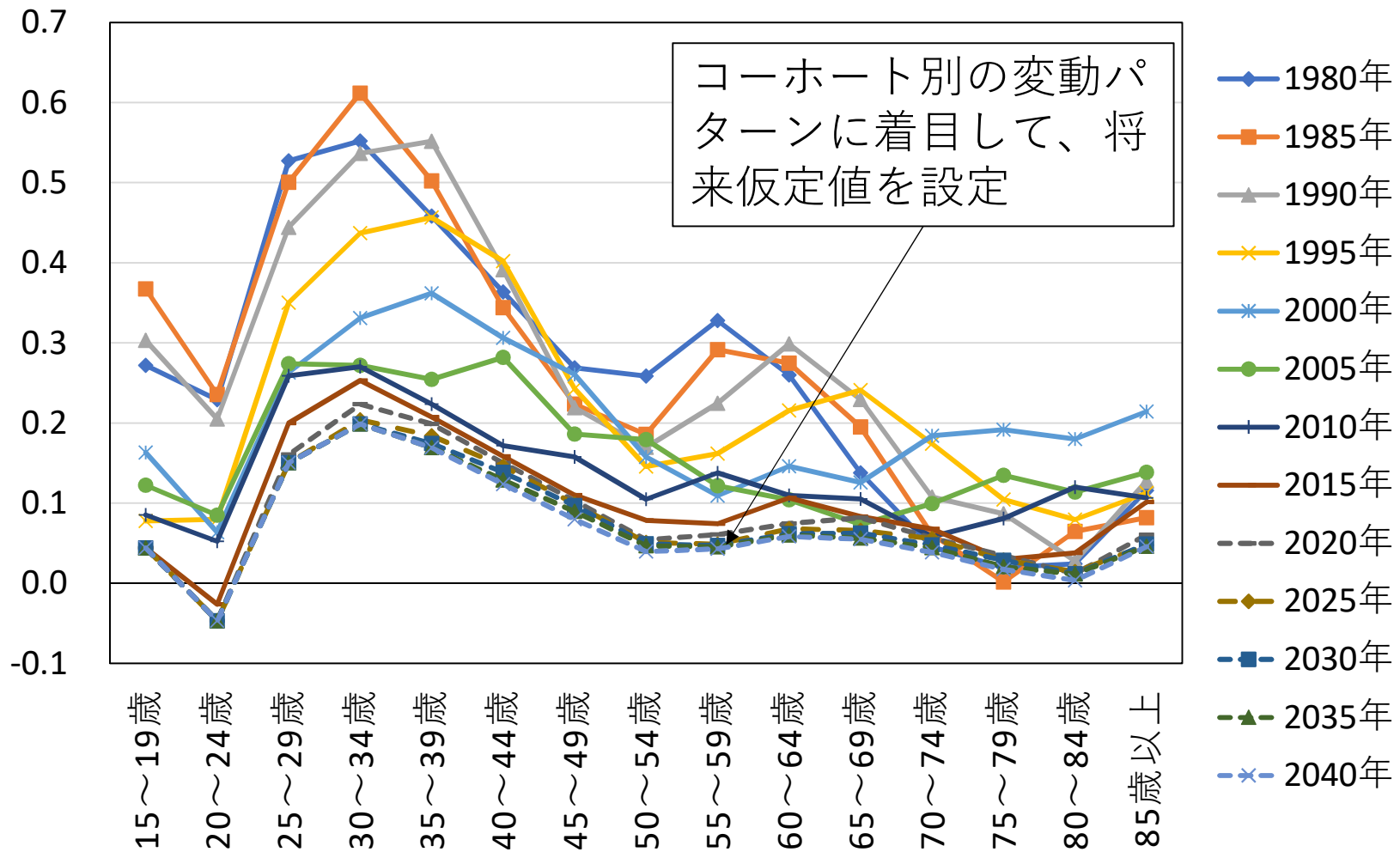
資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数将来推計（全国）」

1.10 2015年の単独世帯主率（男）の比較



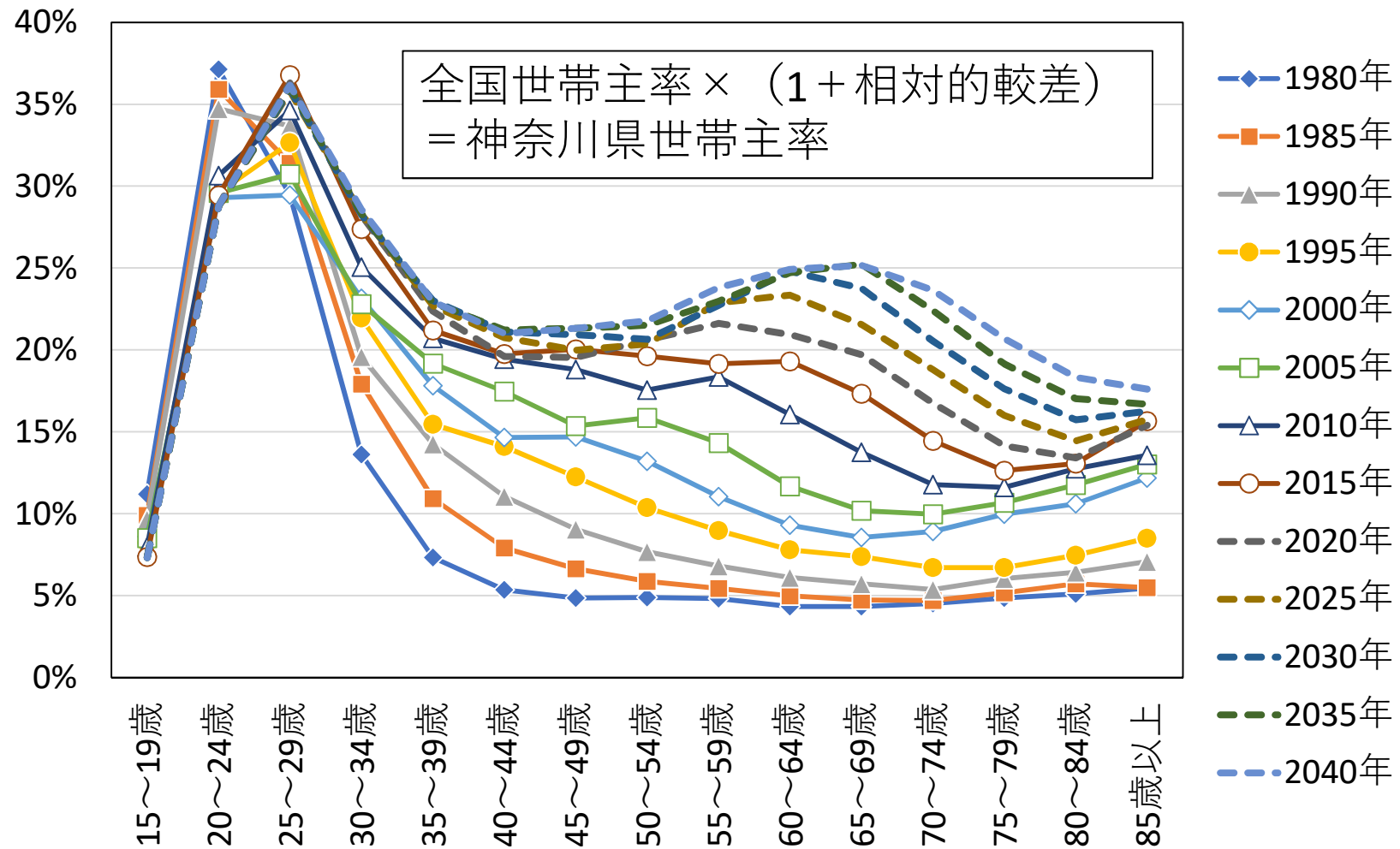
資料：国勢調査

1.11 神奈川県は単独世帯主率（男）の相対的較差



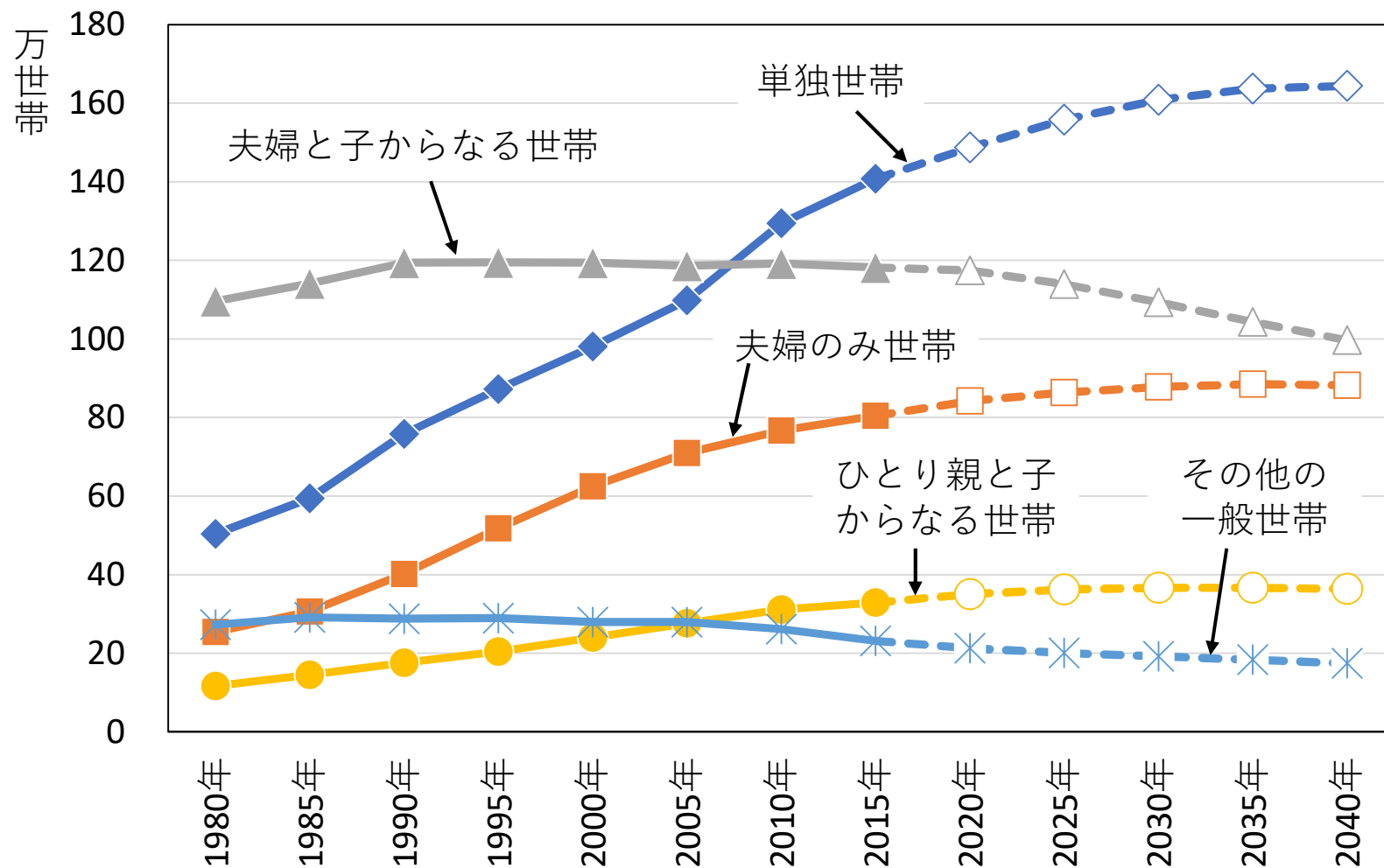
資料：国勢調査

1.12 神奈川県単独世帯主率（男）の将来仮定値



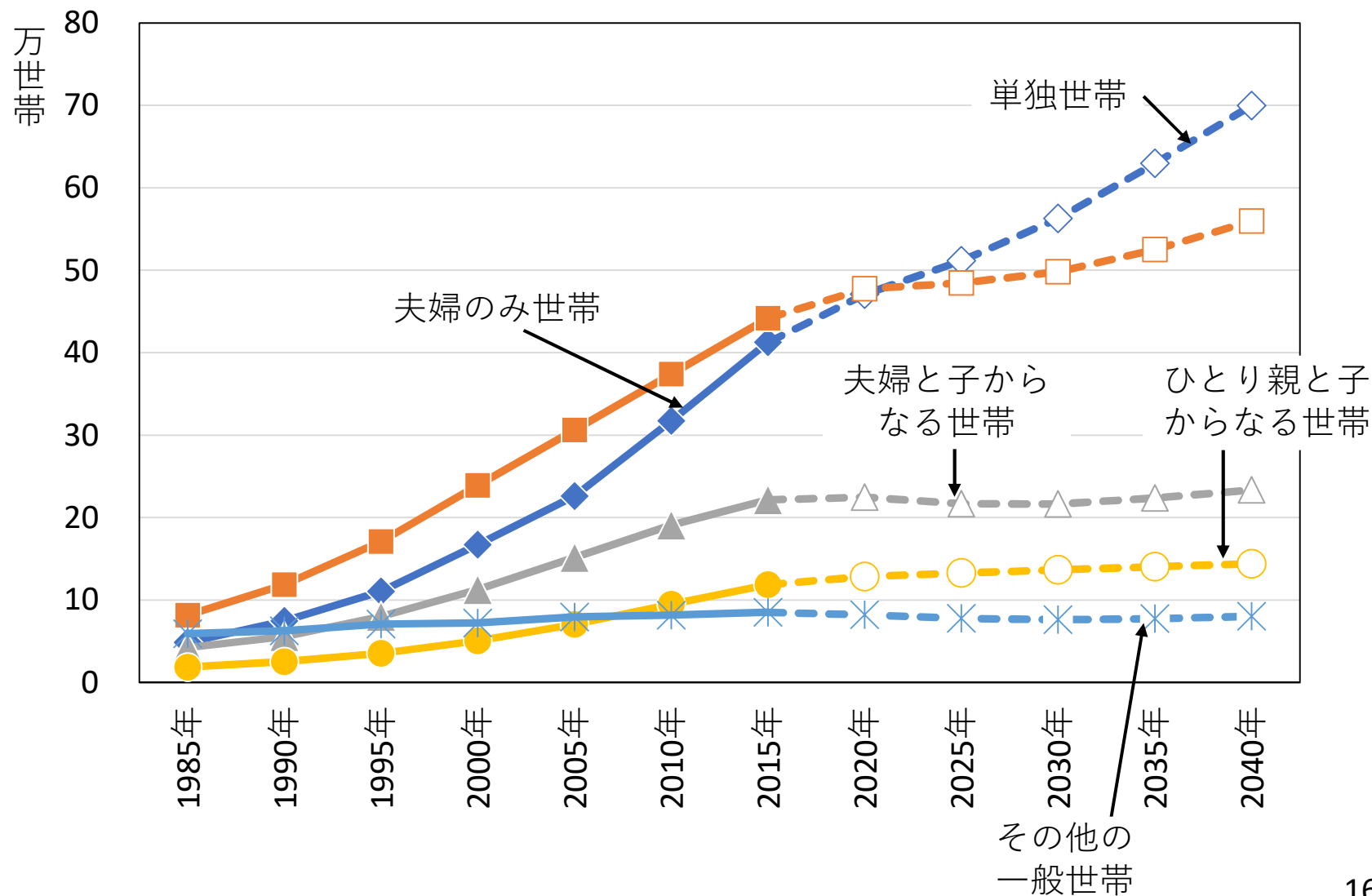
資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数将来推計（全国）」

1.13 神奈川県 の 家族類型別 将来世帯推計結果



家族類型別世帯数 = \sum 男女年齢別・家族類型別世帯主率 \times 男女年齢別人口

1.14 神奈川県家族類型別将来世帯推計結果 (世帯主65歳以上)



2.1 市町村別の世帯推計にあたって

◆国勢調査における男女年齢別家族類型別一般世帯主数データの取得状況

■都道府県、人口50万以上の市

➤1980年以降の国勢調査で得られる。

※単独世帯主は「1人の一般世帯主」として、1980年と1985年の国勢調査に表章されている。

※単独世帯主以外の家族類型別世帯主は、男女・年齢別に表章されるのは1990年国勢調査以降。

➤最大で6期間分のデータであり、コーホート変動を十分に把握できる

■その他の市町村

➤2005年以降の国勢調査で得られる。

➤最長でも2期間分のデータに過ぎず、世帯主率・相対的較差とともにコーホートによる変動パターンを捉えにくい

2.2 市町村別の世帯推計における相対的較差設定

◆市町村推計の場合は、

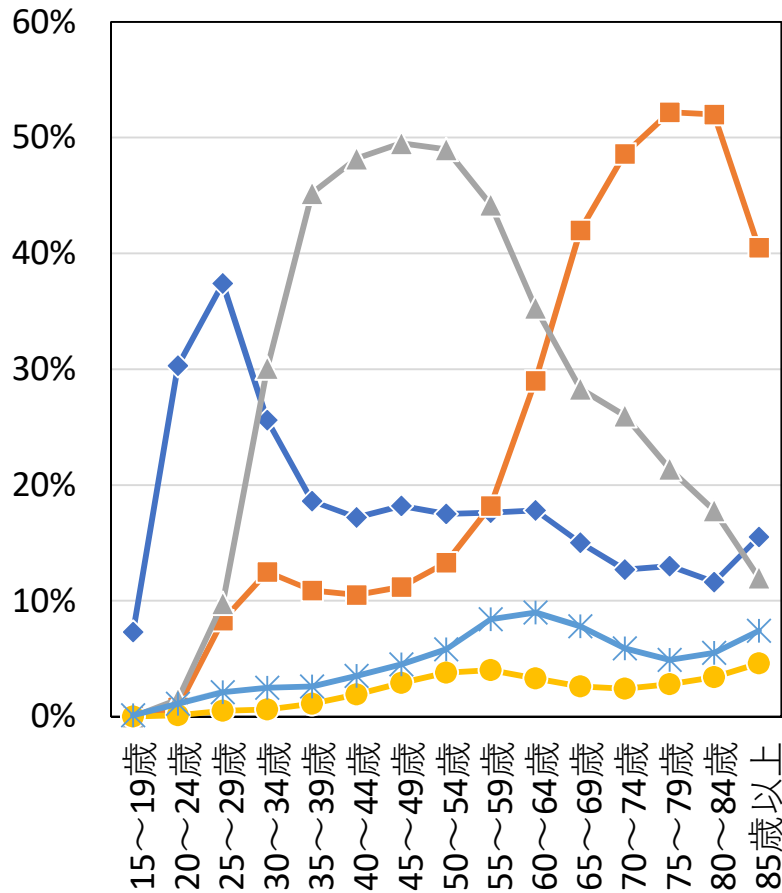
- ① 神奈川県将来世帯主率を基準とし、
- ② 2015年国勢調査における対象市町村と神奈川県の世帯主率の相対的較差が将来にわたって維持される。

とする仮定値設定方法を提案する。

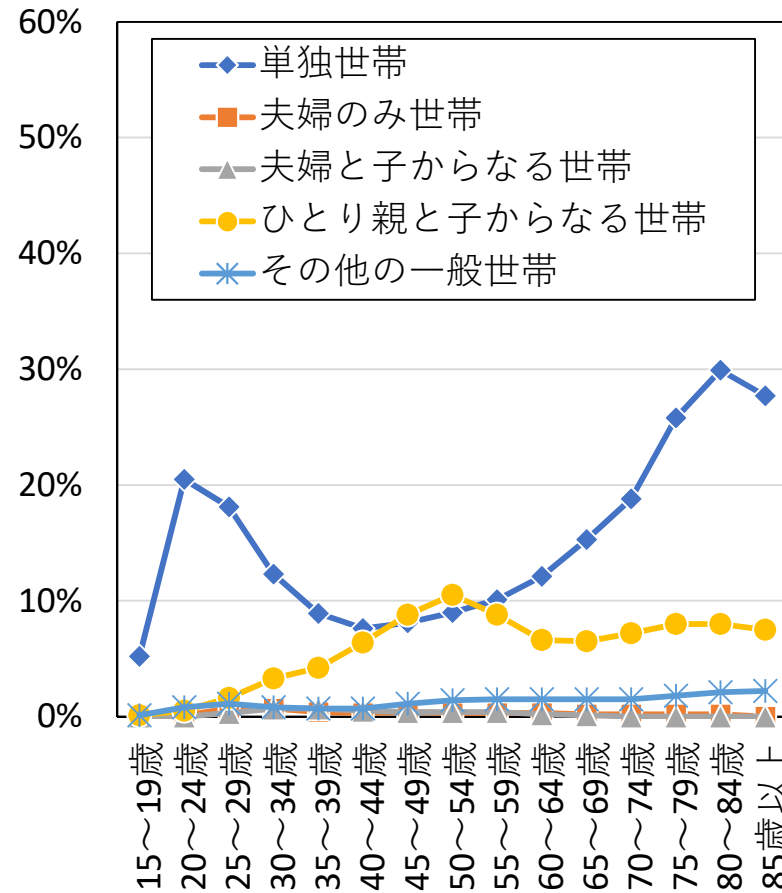
- 相対的較差のコーホート間変化は神奈川県の将来世帯主率設定に包含されていると考える。
- 人口推計・分析共同研究会での5地域別推計（川崎・横浜地域、三浦半島地域、県央地域、湘南地域、県西地域）でも同様の方法を採用している

2.3 藤沢市の家族類型別世帯主率

藤沢市（男）



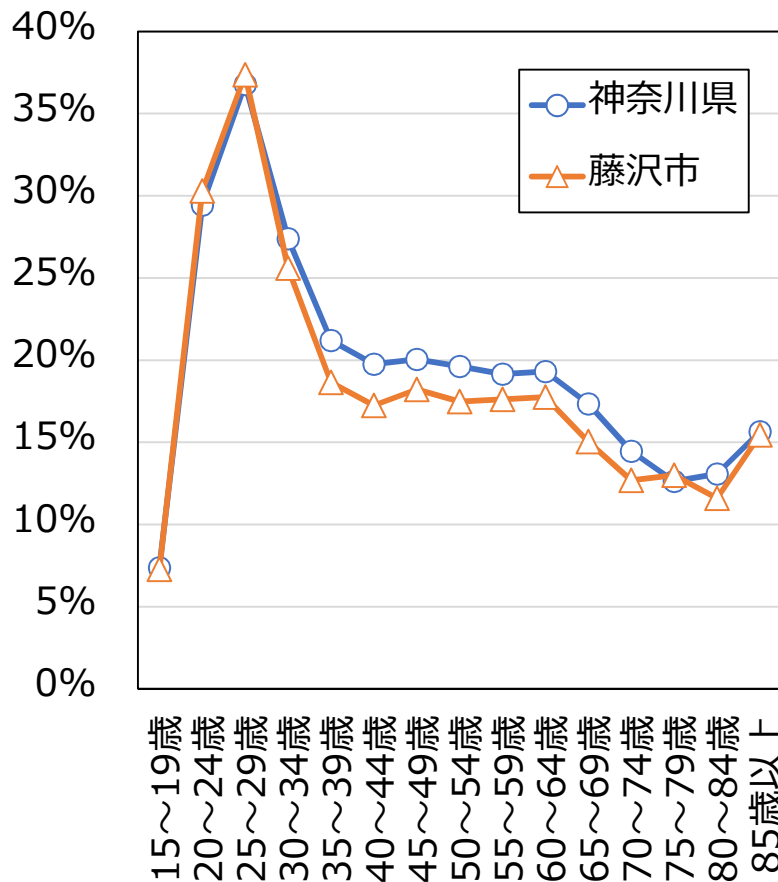
藤沢市（女）



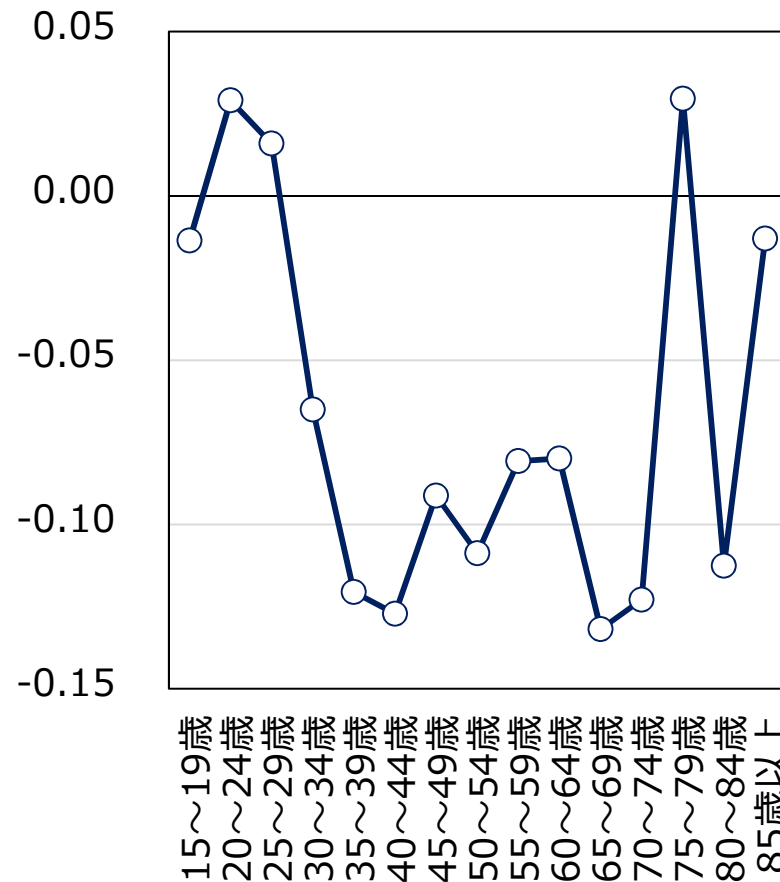
資料：国勢調査

2.4 藤沢市の単独世帯主率（男）の相対的較差

単独世帯主率（男）

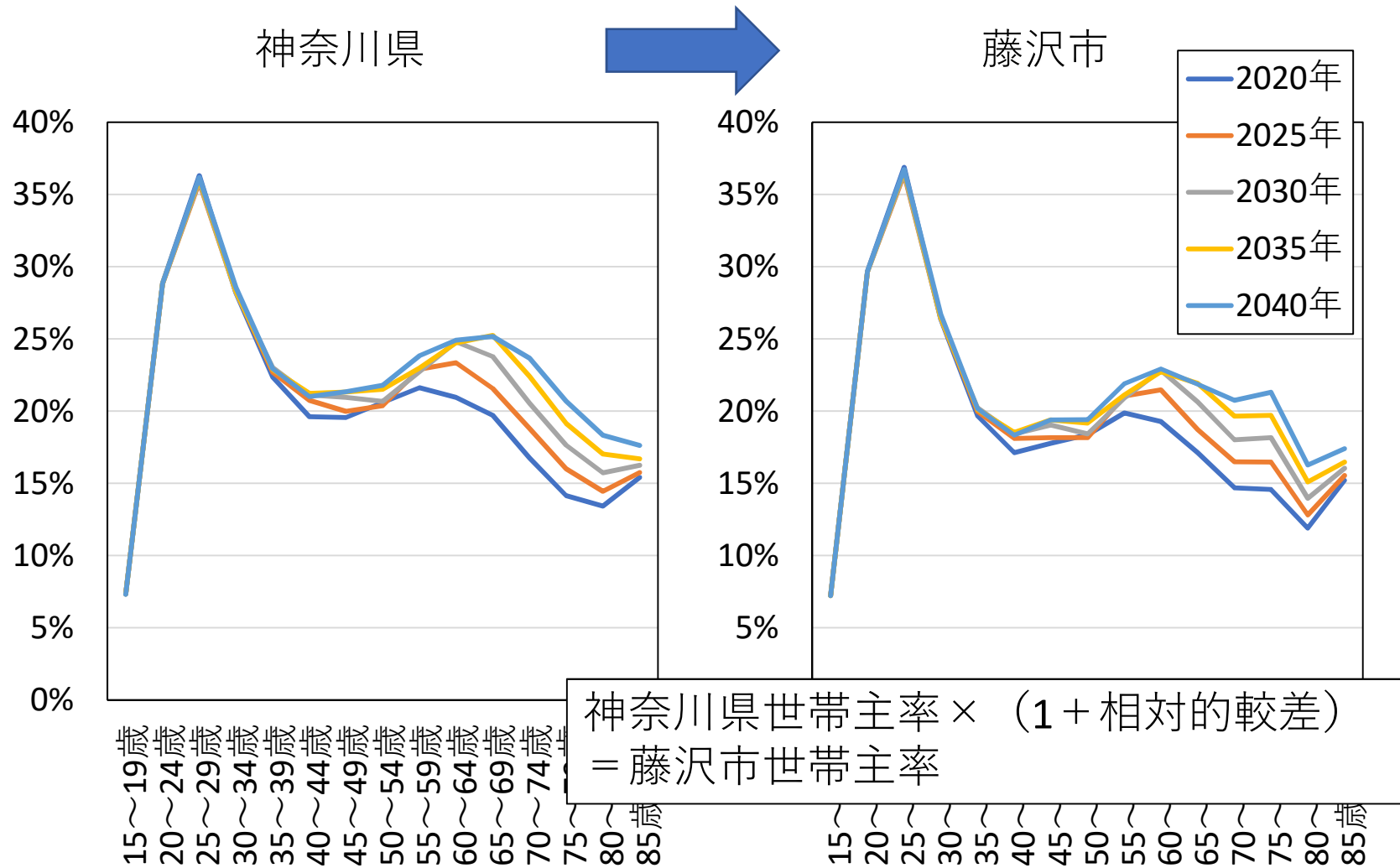


相対的較差（対神奈川県）

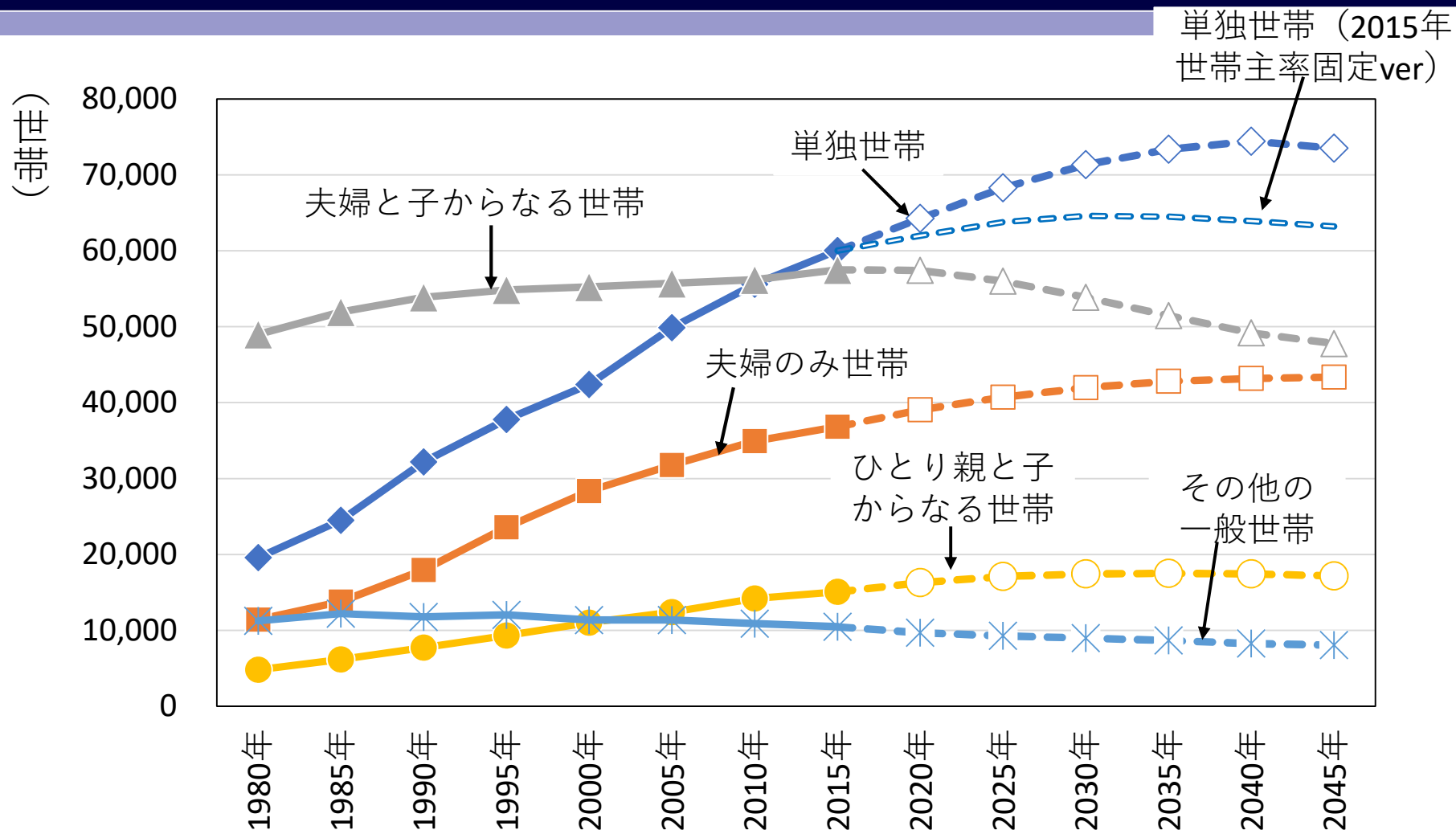


資料：国勢調査

2.5 藤沢市の単独世帯主率（男）の将来仮定値



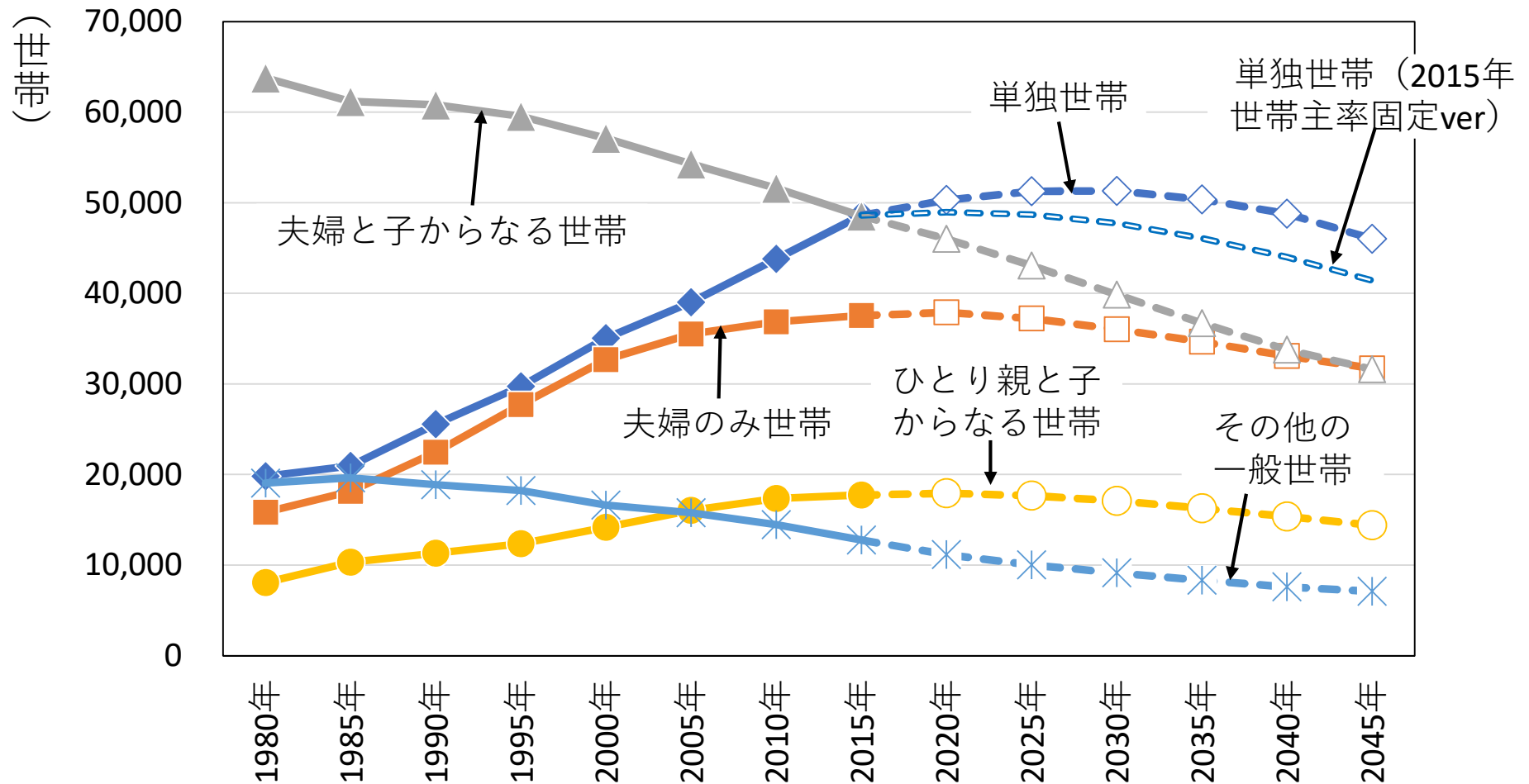
2.6 藤沢市の家族類型別将来世帯推計結果



■注：本推計結果は神奈川県人口推計・分析共同研究会によるものであり、藤沢市の公式な推計結果ではない。

■将来推計人口は社人研推計値を使用している。

2.7 横須賀市の家族類型別将来世帯推計結果

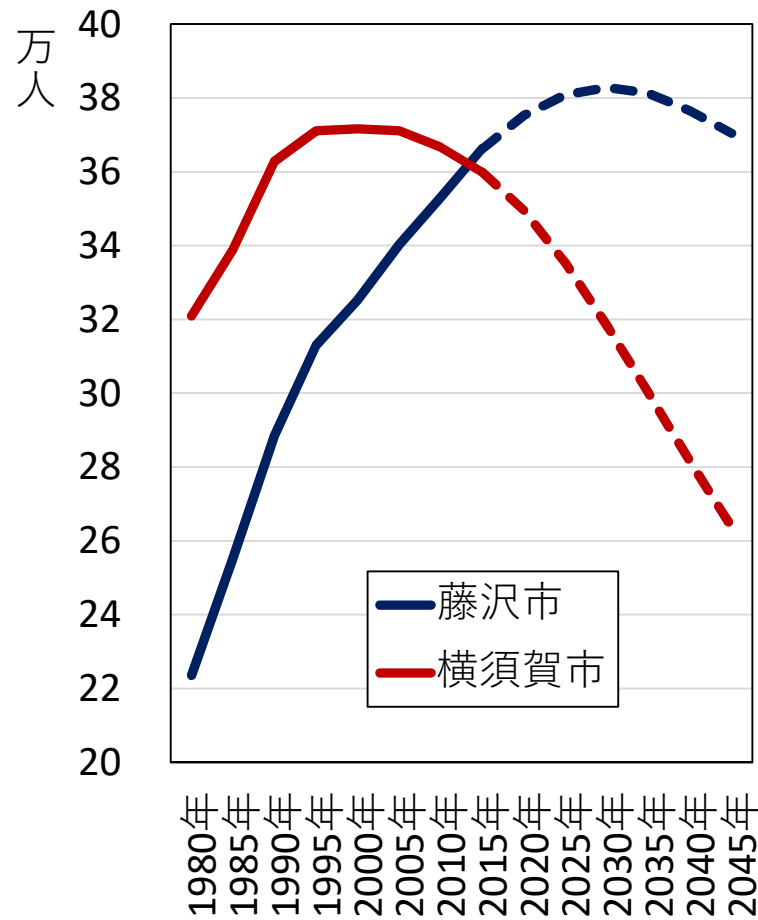


■注：本推計結果は神奈川県人口推計・分析共同研究会によるものであり、横須賀市の公式な推計結果ではない。

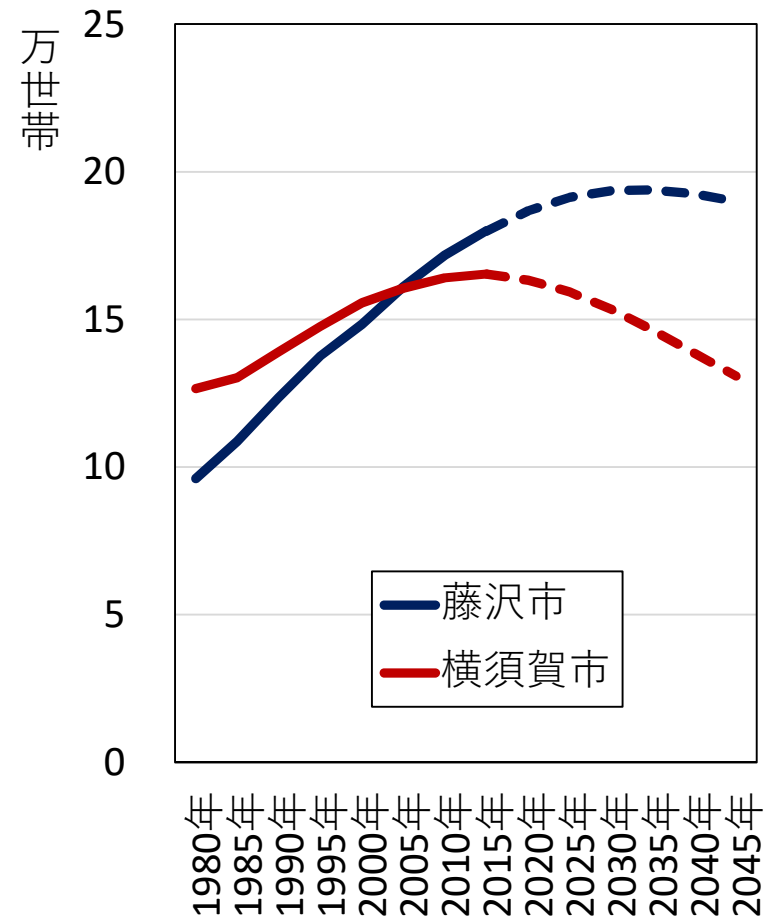
■将来推計人口は社人研推計値を使用している。

2.8 藤沢市と横須賀市の比較

15歳以上人口（男女計）



一般世帯総数



資料：国勢調査

2.9 市町村における世帯推計のまとめ

- ◆世帯主率の相対的較差に着目すれば、社人研の全国世帯推計結果が捉えている将来変動を間接的に市町村世帯推計に反映させられる。
 - できる限り簡便で、地域差が表現できる推計方法と言える。
 - ⇒藤沢市と横須賀市の推計結果の違いでも明瞭である。
 - 2015年の相対的較差を固定することに不安があれば、過去3時点の平均値や将来の変化を考えるとすることも可能である。
 - ⇒ただし、全般的な傾向が変わってしまうほどではない。
 - 神奈川県将来世帯主率は、早々に各市町村が利用できるようになる予定。
- ◆独自推計した将来推計人口を利用すれば、より地域特性を反映した世帯推計となるが、社人研推計人口でも世帯推計はできるし、将来の見通しを得るといって問題ないだろう。
- ◆世帯主の年齢別に集計すれば、高齢単身者・高齢夫婦のみ世帯等の将来見通しも得られる。
- ◆推計期間は長くても20～30年程度が妥当であろう（県推計は参考推計を含めて2065年まで公開）。